

横浜国立大学

令和元年度決算等の概要

○財務情報（損益計算書、貸借対照表）

経費節減に努め、当期総利益は約3億4千万円（対前年度で約2億6千万円の増）

○大学院先進実践学環 学位プログラムの設置に向け、準備委員会を立ち上げ（教育組織）

令和3年度4月開設予定。

○共同研究、特に神奈川県内企業との契約の増加（研究）

契約件数・金額ともに堅調に増加。

○横浜マリノス株式会社様からの人工芝・夜間照明設備寄贈（施設）

横浜マリノス株式会社様との交流・連携。

○財務情報

経費節減に努め、令和元年度の総利益は訳3億4千万円(対前年度で2億6千万円の増)

損益計算書

(単位: 千円)

科目	平成30事業年度	令和元事業年度	増減
I 経常費用	18,211,831	18,052,344	△ 159,487
業務費	17,335,269	17,013,750	△ 321,519
● 教育経費	1,945,140	1,994,223	49,083
● 研究経費	1,149,464	1,174,921	25,457
● 教育研究支援経費	293,580	383,735	90,155
● 受託研究費	1,571,217	1,359,877	△ 211,340
● 共同研究費	565,662	645,722	80,060
● 受託事業費等	207,946	206,066	△ 1,880
● 役員人件費	149,868	94,397	△ 55,471
● 教員人件費	8,464,305	8,242,594	△ 221,711
● 職員人件費	2,988,083	2,912,212	△ 75,871
● 一般管理費	873,738	1,017,989	144,251
● 財務費用	2,200	5,860	3,660
● 雑損	622	14,743	14,121
II 臨時損失	109,326	29,854	△ 79,472
環境対策引当金繰入額	404	187	△ 217
固定資産除却損	108,922	29,667	△ 79,255
費用合計	18,321,158	18,082,199	△ 238,959

施設整備費の工事(教育6号館改修)等による移設撤去費の増

前年度末に契約した高額のリース資産による減価償却費の増

前期末繰越予算及び当期受入額の減少に伴う執行額の減

受入額の増加に伴う執行額の増

※減少要因
役員…報酬支給者及び退職者の減
教員…給与支給者の減
職員…退職者の減

施設整備費補助金の改修工事(給排水設備等)による修繕費の増

(単位: 千円)

科目	平成30事業年度	令和元事業年度	増減
I 経常収益	18,383,132	18,385,792	2,660
運営費交付金収益	8,281,917	8,198,812	△ 83,105
授業料収益	4,832,034	4,781,043	△ 50,991
入学金収益	771,976	767,180	△ 4,796
検定料収益	232,011	216,573	△ 15,438
講習料収益	37,277	29,832	△ 7,445
受託研究収益	1,573,066	1,362,239	△ 210,827
共同研究収益	570,559	648,056	77,497
受託事業等収益	209,609	206,675	△ 2,934
補助金等収益	159,475	108,452	△ 51,023
寄附金収益	468,648	502,918	34,270
施設費収益	76,830	338,603	261,773
資産見返勘定戻入	596,078	611,662	15,584
財務収益	5,475	6,483	1,008
雑益	568,170	607,258	39,088
II 臨時利益	21,201	28,154	6,953
収益合計	18,404,333	18,413,946	9,613
当期純利益(収益合計-費用合計)	83,175	331,747	248,572
前中期目的積立金取崩額	187	6,719	6,532
目的積立金取崩額	-	9,592	9,592
当期総利益 (当期純利益+目的積立金取崩額)	83,362	348,059	264,697

退職手当の次期繰越等による執行額の減

学生数の減少に伴う授業料債務の減(学部、大学院△34,620千円、非正規生△15,364千円)に伴う減

前期末繰越予算及び当期受入額の減少に伴う執行額の減

受入額の増加に伴う執行額の増

交付額の増加(723,000千円)に伴う執行額の増

前年度末に完成した常盤台IRに伴う履行義務収益の増

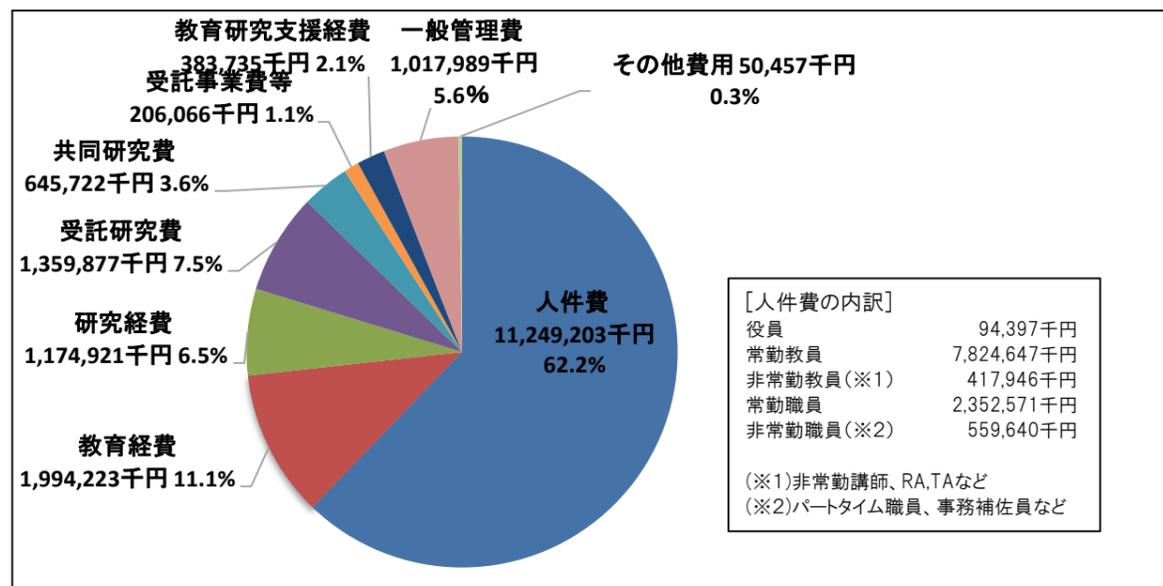
目的積立金取崩による収益化(総合研究棟空調改修、学生会館トイレ改修)

【損益計算書】

一会計期間に費用、収益がどれだけ発生したかを表し、大学の運営状況を明らかにするものです。本学が、教育・研究等の業務を実施した費用をどの財源(収益)で賄ったかを示しています。

費用の内訳

費用合計 : 18,082,199千円



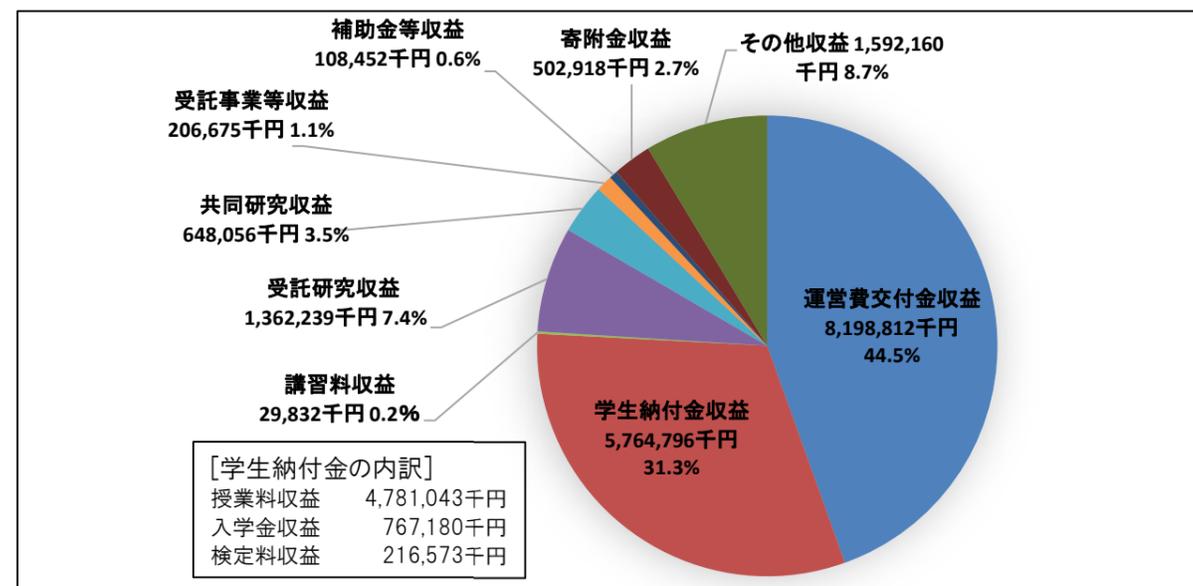
[人件費の内訳]

役員	94,397千円
常勤教員	7,824,647千円
非常勤教員(※1)	417,946千円
常勤職員	2,352,571千円
非常勤職員(※2)	559,640千円

(※1)非常勤講師、RA,TAなど
(※2)パートタイム職員、事務補佐員など

収益の内訳

収益合計 : 18,413,946千円



[学生納付金の内訳]

授業料収益	4,781,043千円
入学金収益	767,180千円
検定料収益	216,573千円

貸借対照表

(単位：千円)

科目	平成30事業年度	令和元事業年度	増減
【資産の部】			
I 固定資産	106,289,998	105,825,827	△ 464,171
1 有形固定資産	104,934,525	104,391,076	△ 543,449
土地	73,892,002	73,892,002	-
建物	21,031,897	20,229,445	△ 802,452
構築物	1,448,654	1,457,085	8,431
機械装置	2,387	1,651	△ 736
工具器具備品	1,638,811	1,488,167	△ 150,644
図書	6,294,351	6,308,689	14,338
美術品・収蔵品	477,145	477,145	-
船舶	994	2,712	1,718
車両運搬具	5,894	1,902	△ 3,992
建設仮勘定	142,385	532,273	389,888
2 無形固定資産	241,280	229,878	△ 11,402
特許権	66,759	55,112	△ 11,647
商標権	906	591	△ 315
ソフトウェア	61,129	58,851	△ 2,278
その他の無形固定資産	16,269	15,172	△ 1,097
特許権仮勘定	96,216	100,150	3,934
3 投資その他の資産	1,114,192	1,204,872	90,680
投資有価証券	1,111,857	1,202,075	90,218
差入敷金・保証金	2,334	2,796	462
II 流動資産	2,949,529	3,658,885	709,356
現金及び預金	2,722,625	3,044,268	321,643
未収学生納付金収入	53,016	76,555	23,539
未収入金	168,157	313,191	145,034
有価証券	-	220,000	220,000
未収収益	2,177	2,248	71
その他	3,552	2,620	△ 932
資産の合計	109,239,527	109,484,712	245,185

建物、構築物、機械装置、工具器具備品の購入により972,000千円の増。(構築物には、横浜マリノス株からの人工芝及び夜間照明設備の寄贈分126,142千円含む)

減少要因は経年劣化に伴う減価償却費等により△1,917,401千円の減

一期末残高945,401千円の減少

施設整備費等による年度を跨ぐ改修工事の増(化学棟改修、特高受変電設備等)

令和元年度末において満期日まで7年の社債を購入したことに等する増

預り金(施設整備費の返還、預かり科研費)の増など、繰越予算分の現金残高の増

受託研究、共同研究、受託事業の未収入金の増

償還まで1年未満の譲渡性預金の投資有価証券からの振替による増

(単位：千円)

科目	平成30事業年度	令和元事業年度	増減
【負債の部】			
I 固定負債	14,424,127	14,681,005	256,878
資産見返負債	9,600,051	10,088,589	488,538
退職給付引当金	1,893	1,807	△ 86
環境対策引当金	2,199	2,386	187
資産除去債務	19,603	28,721	9,118
長期未払金	373,117	287,110	△ 86,007
その他	4,427,262	4,272,388	△ 154,874
II 流動負債	4,364,391	4,898,190	533,799
運営費交付金債務(※)	87,622	117,376	29,754
預り補助金等	80	-	△ 80
預り科学研究費補助金等	164,767	247,297	82,530
寄附金債務(※)	1,792,866	1,827,839	34,973
前受受託研究費	159,941	206,588	46,647
前受共同研究費	150,888	183,798	32,910
前受受託事業費等	541	106	△ 435
預り金	256,361	534,476	278,115
未払金	1,728,677	1,716,642	△ 12,035
未払消費税等	17,658	58,373	40,715
賞与引当金	4,985	5,690	705
負債の合計	18,788,519	19,579,196	790,677

固定資産取得時に、資産相当額を負債として計上(国立大学法人固有の会計処理)

建設仮勘定の増加に伴う増

リース債務の長期から短期への振替に伴う減

大岡IR、常盤台IRの履行義務負債について、時の経過に伴う収益化による減少

退職手当及び業務達成基準の次期繰越による増

期末時点の未払金の増加による増

施設整備費の返還に伴う増(245,000千円)

法人化時に国から引き継いだ出資財産(土地、建物等)

施設整備費補助金、目的積立金等による資産の取得(教育6号館改修、大学会館トイレ改修等)による増

特定償却資産(財源が施設整備費補助金、目的積立金等)の減価償却による減

H30目的積立金の承認による増(83,362千円)、R1執行に伴う減(大学会館トイレ改修等、34,625千円)

人件費等の経費削減による増

科目	平成30事業年度	令和元事業年度	増減
【純資産の部】			
I 資本金	97,453,904	97,453,904	-
政府出資金	97,453,904	97,453,904	-
II 資本剰余金	△ 7,462,647	△ 8,232,104	△ 769,457
資本剰余金	10,774,851	11,012,113	237,262
損益外減価償却累計額(-)	△ 18,199,717	△ 19,209,983	△ 1,010,266
損益外減損損失累計額(-)	△ 33,510	△ 29,792	3,718
損益外利息費用累計額(-)	△ 4,270	△ 4,442	△ 172
III 利益剰余金	459,751	683,716	223,965
前中期目標期間繰越積立金	216,823	127,353	△ 89,470
目的積立金	159,565	208,302	48,737
当期末処分利益	83,362	348,059	264,697
純資産の合計	90,451,008	89,905,516	△ 545,492
負債・純資産の合計	109,239,527	109,484,712	245,185

(※)運営費交付金債務・寄附金債務

企業会計では、現金を受領した場合、受領時に収益計上しますが、国立大学法人会計では、一旦負債に計上します。これは、運営費交付金や授業料は、教育や研究等を行う対価として受領するため、受領した国立大学法人には教育や研究等を行う義務が発生すると考えられるためです。発生した債務は、教育や研究等を行うことにより、負債から収益に振替を行います。

【貸借対照表】

期末における資産、負債および純資産の残高を示し、本学の財政状態を示すものです。

表の左側で元手資金をどのような形で運用しているかを表し、右側で元手資金をどのような方法で集めているかを表しています。

○大学院先進実践学環 学位プログラムの設置に向け、準備委員会を 立ち上げ（教育組織）

令和3年度における、大学院横断型教育プログラム「先進実践学環 学位プログラム」の設置に向けて、準備委員会を立ち上げました。

新大学院では、社会を構成する人間の理解と先進的なデータサイエンスの技法を基軸に、YNUのすべての教育研究分野を融合して、**Society 5.0**における新たな価値とサービスの創出・普及の場面で実践的に活躍できる人材を養成することをめざしています。

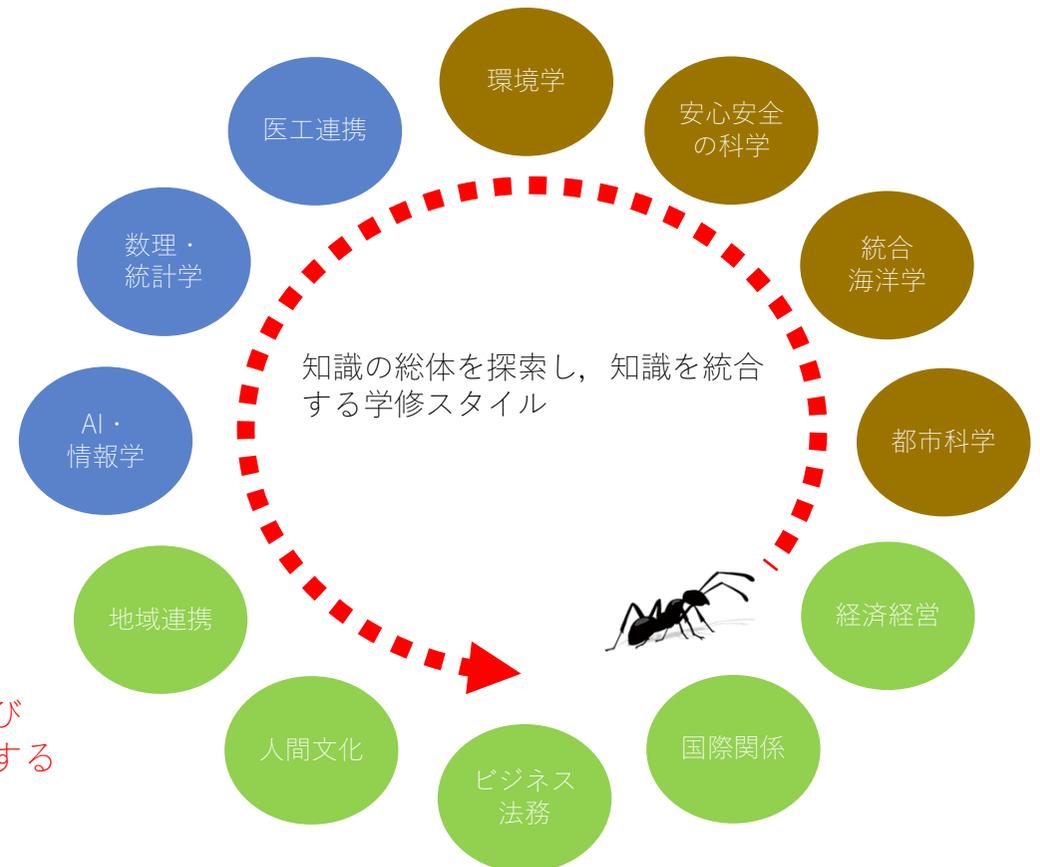
令和2年9月からすでに新大学院入学の出願が始まっています。

大学院 先進実践学環 学位プログラム

全学が連携して実現する学位プログラム

Society 5.0

情報やデータが生み出す仮想空間と現実の空間が高度に融合した近未来社会



○共同研究、特に神奈川県内企業との契約の増加（研究）

民間企業の特定課題について、大学の優れた研究力を活用し共同研究に取り組んでいます。共同研究契約実績としては、2013（平成25）年度から比べると、契約件数2.13倍（契約金額2.58倍）にまで拡大しました。

特に、神奈川県内企業との共同研究では、契約件数2.29倍（契約金額2.42倍）にまで同様に拡大しており、地域産業の振興と地域社会の発展に貢献しています。

民間企業との共同研究契約実績



神奈川県内企業との共同研究実績



○横浜マリノス株式会社様からの人工芝・夜間照明設備 寄贈（施設）

横浜国立大学と横浜マリノス株式会社は2007年に業務提携を結び連携しておりましたが、このたび、本学フットボール場に人工芝及び夜間照明設備を寄贈していただきました。

本学ではこれまでも、学生部活動団体から人工芝化の要望はありましたが、費用の面で実現が困難でした。一方で横浜F・マリノスも、アカデミー（小・中・高校生の育成組織）の練習場の環境整備を検討していました。

今回の寄贈により、日中は学生部活動団体等が、夜間は横浜F・マリノスアカデミーが練習場として活用することにより、両者のニーズを一挙に解決することができました。また、安全性の向上したグラウンドに改修していただいたことにより、地域のスポーツ振興と青少年の健全な成長の促進が期待されます。

完成記念式典の様子



横浜マリノス株式会社関係者の皆様と、学生も交えた記念写真